

第一章：この世界を 愛した司祭 (11Q08)

1. 私は無価値なみじめな
者、しかし価値ある愛で一杯
の者 (11Q08)

2010/07/15

11Q08 ここで先述したことからも窺われる他の面が現れますね。内的戦いにおける疲れの問題です。一度だけ、一言も発せないほど疲れきったエスクリバー・デ・バラゲル師を見たことがあります。1975年、アメリカへの旅からの帰途、マドリードの

モンタルバン学生寮に行かれたときの
ことです。あの状況は、逆説のよ
うですが、非常に励みをもたらすも
のでした。

もう既にお話し頂けたことですが、
私は、オプス・デイ創立者の常変わ
らぬ微笑みの裏には、人には見えな
い多くの苦しみや困難が隠されてい
たのを垣間見ることが出来たと思
います。

11A08 母親や父親は、一日の仕事を
終えて疲れている時さえも、常に子
供たちのことを考えているものだ
と度々話しました。そして、安楽に流
れずに疲れを乗り越えるため、この
ような両親の生活を模範としていま
した。1972年3月5日、次のように私
たちを励ましたものです。「敏感で
あって欲しいと思います。キリスト
が私たちのために引き受けてくだ
さった神の愛によるあの償いを、皆
さんが日々感じるためです。なにか

疲れるような理由があったとしても、戦いに倦むことなく、人々の救いに献身し、励まなければなりません。」

1968年、主に信頼して次のことを思い起こさせてくれました。「この40年間というものの押さえつけられ、疲れた時は信頼に満ちて次のように祈っていました。主イエスよ、御身のうちに憩います！母なる聖マリア、あなたにおいて安らぎます！」人間的に克服不可能と思える艱難に遭遇しても穏やかで落ち着いていました。何事もなかったように働き続け、周りの者達に安らぎや確信をもたらしていました。

どんな時でも、元気をなくしたり、懐疑的になったり、落ち着きを失ったりすることはありませんでした。エスクリバー師の傍では、度々私たちに繰り返していた聖テレジアの「神に信頼している人には、何も欠

けることはない」という言葉を肌で
感じ取ることができました。1966
年、その意向を明らかに要約し、次
のように言いました。「不安と悲し
みは神の本質に真っ向から対立しま
す。神の本質は最高の幸せです。疲
れていると感じたら、神にそれを言
いなさい。大きな困難に出遭った
ら、神の御手に委ねなさい。しか
し、あなたの態度で、師イエスの軛
は重くて、愛のない軛だと思われな
いよう、注意して欲しい。」

神が私たちのために準備しておられ
る永遠の褒美を考えるよう励まして
いました。何か難しいことがあり、
関わりたくないために言い訳をした
い時、物惜しみせずに対処するよう
励ましました。「主よ、こんなに多
くのことを私に要求なさるのなら、
私に何をくださるのでしょうか。」

同じ確信によって1964年、次のよう
に忠告しました。「悲しみに警戒し

なさい。悲しみは身体と靈魂の病気です。オプス・デイの人が悲しむことは考えられない。私は天と地の間に一人ぼっちでいることを何回も経験しました。そのとき私には祈りしかなかった。しかし、皆さんは、祈りの他に、靈的指導において心を打ち明けることができます。神がそう望まれたのです。悲しみを皆さんの生活から取り除きなさい。それが出来なかったら、窓から捨てるのです。」

同じ意味のことを次のようにも言いました。それは、師の魂に響いていたリフレインを表したものです。

「子供たちよ、詩編は全てgloria栄光唱で結ばれていることを思い起こしてください。」そして言い加えました。「私は長年たった一人で、苦しみ、しかし希望をもって神に寄りすがっていました。父なる神がお送りくださったカリスなら、それを退

けることは出来ません。長い間、このように過ごしたのです。」

pdf | から自動的に生成されるドキュメント <https://dev.opusdei.org/ja-jp/article/di-zhang-konoshi-jie-woai-shitasi-ji-11q08/> (2025/08/11)